

「究極の オンリーワン企業」 への挑戦

次から次へと高まり、また、変化する顧客満足度に対応できなければ、すぐにオンリーワンの席から転げ落ちるのである。では、中小企業が生き延びる「オンリーワンの条件」とは何か。オンリーワン企業の典型タイプ、4社へのインタビューで、徹底的に掘り下げる。

鷺田小彌太

札幌大学教授

text by Koyata Washida



日ブラが製作した沖縄美ら海水族館の水槽前で

誰もやれないものなら、
俺たちがやつてやるわ、
じゃないか！



株式会社アールエフ

丸山次郎 代表取締役社長

「我々は『素人集団』だ」

IV オンリーワン企業の

困難は「営業」にある といわれるが……

製品のよさが即、営業力だから
営業は基本的に「待ち」

「日ブラ」「東亜工機」に共通するのは、積極的な営業活動をしないうことだ。基本は「待ち」である。製品のよさが即、営業力だからだ。

「旭川市旭山動物園」は、現在、抜群の集客能力を誇る。その中心は「ペンギん館」で、観客は、三六〇度まるまる見える透明の水中トンネルを、ペンギンとともに泳ぐ臨場感を存分に味わうことができるのだ。この水中トンネルを造ったのが「日ブラ」で、当然のように、集客に悩む全国の水族館、動物園から注文が殺到する。

「東亜工機」の最大のライバルは、世界最大の造

船メーカーである韓国の現代で、シェア二五割くらいある。しかし耐摩性、耐久性が「東亜工機」より劣り、大型のものになればなるほど、「東亜工機」のライナと取り替えたいという注文がやってくる。「結局、製品が第一で、お客さんがそれに点数をつけてくれ、向こうからいいとってきてくれる」のだ。

「アールエフ」は、当初から営業宣伝活動はダイレクトメールで、カタログも、「社員の手作りのもの一本」という状態できた。主力製品が歯科歯科医をターゲットとするなら、営業は一般的には戸別訪問である。だが社員が田舎丸出しの長野県人なので、戸別訪問は苦手であった、と丸山社長は率直に語る。

実績が示すように、使いやすく安い自社製品



歯間楊枝製造機

究極のオンリーワン企業ファイル①

歯間楊枝に特化し生き残りを図った

——株式会社



歯間ブラシ(キャップ付き)



歯間ブラシ自動キャップ差し機



左上:主力製品のデジタルX線センサー「NAOMI」/上:アールエフ東京店ショールーム(東京駅八重洲口前)/左下:次世代カプセル内視鏡「Sayaka」

VI 「理念」あるビジネスこそが生き残る

小児科の意見に挑戦した
「幼児に使える技術」

オンリーワン企業は、儲け主義に走らない。拙速を嫌う。とはいえ、オンリーワンを自称したり、シェア率の高さだけを誇る企業がないわけ

はない。上場し、株価が高くなったところで全株を、したがって会社ごと売る。「ビジネスは儲けだ」に徹する企業だ。

ここで抽出した四社は、自社のビジネスに独特の「理念」をもっている。生き残るオンリーワン企業の特徴の一つと聞いていただろう。

「アールエフ」の主力製品は医療機器である。

歯科用の口腔内カメラ開発は、偶然的注文から始まった。インタビュアーのなかで丸山社長は何度も「道徳」という言葉を使う。「この機械は体が相手だから、道徳的でなければならぬ」「工作機械のほうから入って、内視鏡が来て、人体のほうに行くのではなく、逆だったから、正解だったかもしれない」

ここで「道徳」というのは、「人体に優しい」「精神に、なるべくストレスを与えない」ということである。

丸山が目指すのは、たんなる人体ではなく「幼児」の体に優しい、「幼児に使える」技術である。その一つの答えが「カプセル内視鏡」だ。生まれて二、三カ月で体の中を見られればよいな、という小児科の意見に対する答えでもある。これに「ノリカ」と「サヤカ」という名をつけたのも、女性の優しさにつながるからだ。

人間は生あって死ぬ。しかし
「会社は永遠だ」

「日ブラ」の敷山社長は、独特の会社哲学をもっている。

海の中を体験できるアクリル水槽、海の中を再現できる巨大アクリルパネル、という「製品」の製造は、もはや敷山社長の「現実」であって「理念」ではない。

いま夢中になっているのは、新屋島水族館であり、隣接の夢虫館である。「日ブラ」が最初に作ったアクリル水槽が屋島山上水族館のものだった。それを引き取りリニューアルした。どちらも自社営業だ。

敷山の創業以来の哲学(理念)は、「人間は生あって死ぬ。だが会社はいつたん起こしたら、生ませることはできても、死はない。永遠なのだ」。これを自分に言い聞かせてきて四〇年、新たに会社を生ませることができた。敷山の理念の一つの実現と見ている。

この伝統を断つてなるものか
「楊枝は日本文化だ」

楊枝は仏教とともに伝来し、日本独特の発展を遂げた伝統「文化」である。それが、「安かろう、よかろう」のチャイナ製によって断たれそうになっている。残るは我が「広栄社」だけだ。



究極のオンリーワン企業ファイル④

世界最小のCCDカメラ技術を口腔医療に応用

——株式会社アールエフ